

海外安全対策情報（2019年7月～9月：ナミビア）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）当地は政治的に落ち着いており、これまでテロや特定外国人を標的とした誘拐は確認されておらず、アフリカの中では比較的安全と言われている。他方、都市部では路上強盗等の一般犯罪は頻発しており、邦人旅行者が被害者となる事件も発生している。

（2）最新の犯罪統計（安全保障省統計：2014年～2016年）によれば、国内全体の刑法犯認知件数は年々増加の傾向にあるが、例年、認知刑法犯の種類に大きな変化はなく、年末は都市部の犯罪が地方へ分散する等パターン化しており、治安は一定を保たれている。月別の刑法犯認知件数については、1月が認知刑法犯の件数が最も少なく、2月～4月に増加、5月～6月に減少、7月～9月に多少変動があるが横ばい、10月～年末にかけて増加、12月が最も多くなる。認知刑法犯の上位は、住居侵入、暴行、盗難、車上荒らし、強盗等が挙げられる。

（3）当地の失業率は、2014年の28.1%から2016年は34%と増加傾向にある。特に若い世代の失業率は37.8%（2016年）となり、それに伴い若年層による金銭目的の一般犯罪が増加傾向にある。標的となりやすい物はカメラや携帯電話等の電子機器である。当地で発生した携帯電話の盗難被害件数は、2014年の4,446件から2016年の6,075件と27%増加している。

（4）環境・観光省のデータによれば、当地を訪れる邦人渡航者数は、2015年に2,192人、2016年に3,957人、2017年は4,167人と年々増加している。日本旅券盗難被害は2016年に6件、2017年に9件、2018年は1件となっている。邦人旅行者に対する刑法犯認知件数は2018年に4件、今年9月末時点で4件となっている。

（5）近年、体感治安の悪化により国民が安全意識の向上に関心を示し、銃の免許取得者は年間6,000～7,000人のペースで増加している。当地の銃器盗難件数は2016年に過去最高の250件を越え、銃器を使用した強盗は全体の強盗事件の内24%、銃器を使用した殺人事件は全体の殺人事件の内14%となっている。なお、Small Arms Survey（※当館注：スイスジュネーブにある国際銃器研究所）が昨年6月に発表した調査結果によれば、ナミビアの銃器所持率はアフリカで二番目に高く、396,000台であり、その内個人使用目的の195,990台が違法、200,010台が合法の銃器と推定される。当地の治安当局は年々増加する銃器の増加、盗難や持ち主の管理不十分による紛失につき、銃器関連の犯罪増加を懸念している。

2 外国人に対する犯罪の事例

（1）7月8日、午後2時15分頃、ウイントフック市内、エロス地区のスーパーマーケット

(Woerman Brock Eros) でオランダ人旅行者が ATM で現金引き出そうとしていたところ、不審者が被害者に話し掛ける等して、注意を惹きつけ、カードを奪い逃走した。被害者は早急にカード取引を停止したため、不正に現金が引き出される等の被害はなかった。

(2) 7月13日、午後8時頃から14日午前6時の間、ウイントフック市内のブランドバーグ・エロンゴ通りで在留南ア人宅に対する空き巣事件が発生。何者かが鉄格子と窓を破壊、侵入し、電子機器等10,200ナミビアドル(邦貨約81,600円)相当を持ち去った。

(3) 7月15日、午後2時30分頃、ウイントフック市内のショッピングモール(Wernhil Park)の屋外駐車場で、オランダ人旅行者が車上荒らし被害に遭い、金品等が入ったバッグを盗まれた。

(4) 7月21日、午前2時40分頃、ウイントフック市内のカスティール通りで在留ドイツ人宅に対する空き巣事件が発生。複数名の犯行集団はスクリュードライバーを使用しドアを破壊、侵入し、現金13,000ナミビアドル(邦貨約104,000円)相当を持ち出そうとした。犯人は巡回中の民間警備会社に発見、制圧され、警察に逮捕された。

(5) 7月31日、午後6時30分頃、ウイントフック市内のハイキング場(Farm Windhoek)でドイツ人旅行者が強盗被害に遭い、携帯電話を奪われた。

(6) 8月12日、午前8時30分頃、ウイントフック市内のコーヒーショップ(Slow Town Coffee on independence Avenue)向かいの路上で在留米国人が車上荒らし被害に遭い、旅券等が入ったバッグを盗まれた。

(7) 8月12日、午後2時30分頃、ウイントフック市内の市場(Single Quarters Market)の駐車場で、観光バスに対する車上荒らし事件が発生。犯人は当時車内に運転手がいたにも関わらず、バスの窓ガラスを割り、旅行者のバッグ3個を奪い逃走、バスの運転手は車から降り、追いかけたが、犯人が大型ナイフをちらつかせたため、追跡を諦めた。バッグ2個はドイツ人旅行者、1個はスイス人旅行者のもので、中には外貨が入っていた。被害総額は66,723ナミビアドル(邦貨約533,000円)相当であった。

(8) 8月13日、在留南ア人が詐欺事件に遭った。警察によれば、被害者は重機購入のため456,840ナミビアドル(邦貨約3,654,000円)をオンラインで架空業者の指定振込先に入金してしまったとの由。

(9) 8月22日、午後10時頃、ウイントフック市内、フィリップ・シリメ通りに居住してい

る在留邦人宅に対する強盗事件が発生。自宅内にいた邦人は外から物音が聞こえたため様子を見に行ったところ、犯人 3～4 人が侵入を試みていたため、在留邦人は寝室へ避難した。その後、強盗はバルコニーのドアを破壊し侵入、書斎にあったノートパソコン 2 台、テレビ、携帯電話、ゲーム機等を持ち去った。

(10) 8月22日、午後12時頃、ウイントフック市内のキャンプ施設 (Urban Camp) で車上荒らし事件が発生し、ドイツ人旅行者の外貨含む金品が入ったバッグ1個が盗まれた。

(11) 8月29日、午前11時頃、オシャナ州、オシャカティ市内において、在留邦人がスーパーマーケット内でスリ被害に遭い、携帯電話1台が盗まれた。

(12) 8月30日、午後12時頃、オシャナ州、オシャカティ市内のタクシー乗り場で、在留邦人が7人組の男に囲まれ、財布、デビットカード、携帯電話等を盗られる事件が発生した。被害者によれば、7人はタクシーの客引きと思われる、内2人が荷物を運ぼうと手伝うふりをし、バッグのファスナーを開け、中の貴重品を盗んだ可能性があるとの由。

(13) 9月12日、午前9時～午後3時の間、ウイントフック市内の在留ジンバブエ人宅で空き巣事件が発生し、テレビ2台、携帯電話3台、タブレット2個、159,000 ナミビアドル (邦貨約1,270,000円) 相当が盗まれた。警察によれば、外周を破壊し侵入した形跡はないため、鍵を掛け忘れていたか、合鍵を利用し侵入した可能性があるとの由。

3 薬物・危険ドラッグについて

(1) ナミビアは違法薬物や危険ドラッグ等の密輸のため、ブラジルから南アフリカ、南アフリカからアンゴラの経由地として利用されている。

(2) 昨年6月15日、当館から西へ約300kmの港町ウォルビスベイで、ブラジル、南アフリカを経由してきた412kgのコカイン (ナミビア史上最高額、市場価格206,000,000ナミビアドル、日本円で約20億円) が押収された。

(3) 今年2月11日、ナミビア警察広報担当官は、ナミビア警察・麻薬取締部が過去4か月間で違法薬物9,500,000ナミビアドル相当 (日本円で約7千6百万円) を押収、423名を逮捕したと発表したうえで、「これまでナミビアは違法薬物の中継国と認知されていたが、もはや中継国でなく消費国である。」と述べている。

4 交通事故

交通事故による死者数は年々増加の傾向にあり、2011年の492件から2016年の731件と

5年間で33%増加している。交通事故発生の主な原因は、スピード超過、不注意、無謀運転等である。2016年のデータによれば、横転事故が全体の交通事故の29%を占め、次いで追突事故が27%、歩行者との接触が23%となっている。直線で片側一車線という道路も大きな事故の要因のひとつである。大型幹線道路で高齢者や初心者、または大型トラックが低速で走行していることに起因する無謀な追い越しも交通事故発生要因のひとつである。旅行者が移動中、飲酒運転による無謀運転の事故に巻き込まれ死亡したケースも発生しており、飲酒運転手の事故に巻き込まれないよう、信号が青でも、交差点に進入する際は左右の確認をする等、注意が必要である。最新の情報によれば、2019年の1月から10月までの交通事故報告件数は2704件、死者455人となっており、昨年同時期までの死者数414人と比較すると、41人増加している。

5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

6 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人が被害者となる、身代金目的の誘拐事件は認知していない。

7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

8 日本人安全対策のためにとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○7月26日付、当地治安情報

○9月26日付、当地治安情報（了）